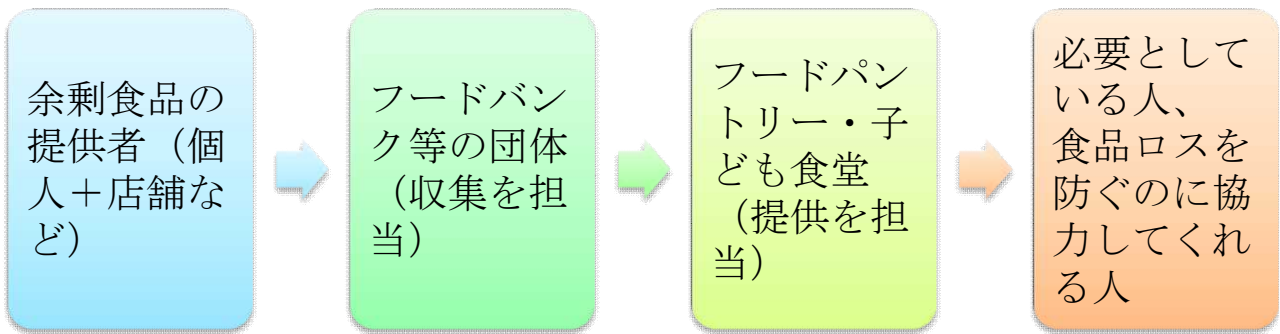


子ども食堂と食品ロスについて

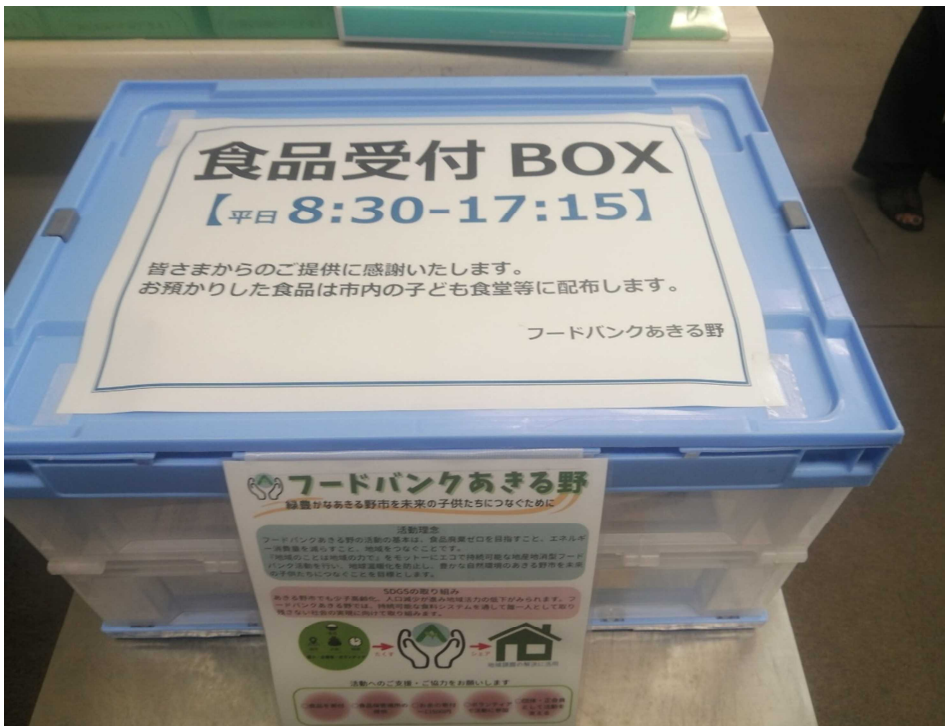
取材：あきる野ごみ会議

食品ロスとして、家庭から出る未開封食品などについては、フードバンクや子ども食堂など受け入れをしている団体があります。それぞれの役割について取材をしてきました。



あきる野市には市民団体の「フードバンクあきる野」があり、町内会や学校等に協力いただきフードドライブ（未利用食品の寄贈収集）を実施しているほか、令和5年8月から食品の回収ボックスを社会福祉協議会に設置しています。フードバンクあきる野では『緑豊かなあきる野市を未来の子供たちにつなぐ』をモットーに余剰食品の循環を通してつながり合う街を目指し、食品の収集と広報活動を行っています。

【フードバンクあきる野】



（社会福祉協議会に設置された食品受付ボックス）

フードバンクあきる野
@FoodbankAkiruno X（旧twitter）より引用）

フードバンクあきる野では、団体や個人によって必要としている食品にも違いがあるため（例：介護食品や防災備蓄品を子どもは食べづらい。）収集した食品を無駄なく消費したいとの考えや業務量の問題などから、直接個人への配布は行わず、個人等への提供を担当する団体へ受け渡しています。

個人等への提供を担当する団体でもニーズは異なります。五日市保育園では、「もらうことでフードロスの削減に協力しよう」というメッセージのもと、市内の高校において無料配布（出張パントリー）をしたり、夜の子ども食堂「くうねる」を毎月1回実施しています。

また、認証保育所ウッディキッズでは「ウッディカフェよっちゃんち」を運営しており、**子どもの居場所づくりをメインに事業**を行っており、活動の一環として副次的に食品提供があるという場合もあります。

今回取材をしてわかったのは「福祉としての食品提供」では、もらう人（受け手）に罪悪感を与えることもあるということです。

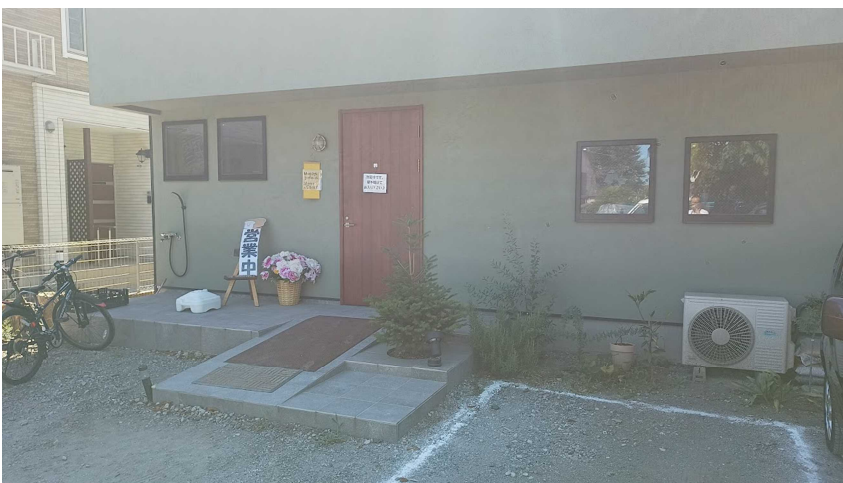
「私よりもっと困っている人に食べさせてあげてほしい」「私なんかが食品をもらいに行ってもいいのだろうか」という気持ちを食品を受ける側に与えるような形になってしまうと、結果的に食品消費量が供給量を下回り、食品をごみとして捨てることとなります。

食品の受け手を「食品ロス防止に協力してくれている人」と捉え、「食品をもらう人は、食べ物を捨てる側の罪悪感を無くしてくれる人」といった**お互い様の関係**となることが大切です。

提供側と受け手側が対等になれば食品ロスはなくなりません。受け手側も「代わりに食べて、食品ロス削減に協力している」という気持ちで受け取る必要があります。

地域経済の中で、食品の利活用という共通目的に協力しあう**お互い様の関係**が食品ロス対策には必要です。**提供側も受け手側も意識を変えていく必要がある**と感じました。

【ウッディカフェよっちゃんち】



認証保育所ウッディキッズの敷地内にあるウッディカフェよっちゃんち
(外観)



通常はパンの販売なども実施しています。（
情報発信についてはウッディカフェよっちゃんちのインスタグラムを確認ください。

https://www.instagram.com/woodycafe_yocchanchi/

子どもが立ち寄りやすいよう駄菓子の販売などもしています。



夏休みで宿題をやりに来ている子供などもいました。



こども食堂実施日には18歳以下は0円でパンや食事を提供をしています。（提供数に限りはあります。）

【五日市保育園】



五日市保育園では、「もったいないをなくそう」と地域の農家や飲食店、小売店などから、お魚や餃子の皮や切れ端、パンを作る際にでる余り生地から作ったクッキーなどの食品提供を受けてメニューを工夫しています。また、地域の方々や家庭菜園などで収穫できる野菜や、自宅で食べきれずに余っている食品なども活用して工夫を凝らして運営しています。商店や各個人を含めた地域経済の多くの協力があって成り立っています。



←近隣の方から提供していただいた野菜

家庭で余った食品を受け付けています。



地域みんなが笑顔に
(受け手も渡し手も全員が嬉しい)

五日市保育園の実施する子ども食堂
「くうねる」について詳しくは
[こちらのページ](#)をご覧ください。

(3枚の画像：五日市保育園より提供)

※掲載内容については、市民の方から提供いただいた情報を元に掲載しております。
ごみの減量の取組をしている事業者、団体の方は生活環境課へご連絡ください。

以上